



■プログラム修了生のメッセージ



グリーンアジア国際戦略プログラム
第1期修了生

赤嶺 大志

Green Asia プログラムを修了して

私は Green Asia (GA) プログラム第1期生となり、様々な方々の力添えのもとプログラムを無事修了し、現在は大学教員として研究と教育に邁進しています。GA プログラムは私の博士課程生活において多くの重要な機会と知識を提供してくれました。ここではその経験を振り返り、プログラムを通して得たものについて述べたいと思います。少しでも参考

になれば幸いです。GA プログラムは文系科目を含む多様な科目の履修や国内外におけるインターンシップ等の実践経験を通して優れた博士人材を育てることを目指したリーディング大学院プログラムであり、在籍中には沢山の貴重な経験をさせていただきました。一面的には、博士課程研究と並行してこのような多岐にわたるイベントをこなすスキルを身に着けるのは無謀であるようにも思われましたし、実際全て体得できたかと問われると微妙なところです。しかしながら、私は GA プログラムの精髓は分野局所的なスキルを獲得することではなく、アジアにおける我々の立ち位置を認識したり学問の多様性を知ったりするなど、俯瞰的な視点を獲得することであったのではないかと考えています。ある学問について見識を深めることは専門書を手に取れば常に可能ですが、どういった知識が必要かというレベルの判断を迫られたときには、引き出しの中身よりも多くの引き出しを持っていることが第一に求められます。通常の博士課程では、数多くの引き出しが存在するということが自体に無自覚なまま社会へ出てしまうことも考えられます。この点において、GA プログラムはカリキュラムを通して多様な引き出しが存在することへの気づき、すなわち「学識の芽」を提供してくれました。近年では先端研究においてイノベーションを目指した分野融合的な動きが強まっていることから、このような経験は益々重要なものとなっているように感じます。これから博士課程で学ぶ方々には、この点を意識し現在の自分の視野に自分を閉じ込めることなく貪欲に歩んで行ってほしいと思います。



グリーンアジア国際戦略プログラム
第1期修了生

儀間 弘樹

グリーンアジアリーディングプログラムを修了して

GA プログラムを修了し、企業に就職して早くも2年が経とうとしています。この約2年間を振り返ると、企業の考える時間感覚と大学の考える時間感覚に大きな差があるということを実感した(している)2年間だったといえます。企業では製品化をできるだけ早く達成することが目的であるため、研究・開発期間は数ヶ月単位が主になります。私は現在、

そのような開発テーマを複数受け持っており、大学とは異なるスピード感を楽しみながら業務に取り組んでいます。対して、大学では新知見を得ることを目標とするため年単位での研究期間が主となります。どちらが良い、悪いということではなく、いずれの価値観も自分自身の経験・感覚として養うことが重要であると本原稿を執筆しながら感じている次第です。売れる製品として多くの人に利用してもらえないことには自分の研究開発成果を認知してもらうことはできませんし、大学のような時空を超えた視点で物事を思考し、論文や学会発表の場で世にアウトプットする力がないことには企業含めた社会の持続的な発展に寄与することはできないでしょう。GA プログラムでは、多くのインターンシップや海外演習などを経て、そのような産学間に通じた感覚素地を養えたと今になって思います。今後も GA プログラムで培った力を存分に発揮し、自分自身も更に成長していきながら社会に貢献していく所存です。GA プログラムも今期で3期生が修了する時期となりました。これからは後輩の皆さんとも切磋琢磨できることを楽しみにしています。



グリーンアジア国際戦略プログラム
第1期修了生
(平成29年度 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 入構)

正木 悠聖

私は、工学府地球資源システム工学専攻資源処理・環境修復工学研究室に在籍し、修士1年の秋から第一期生としてグリーンアジア国際戦略プログラム(以下「GA」)に入り、平成28年度に修了しました。その後、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「JOGMEC」)に入構したわけですが、個人的には GA のカリキュラムは充実したものだったと感じています。特にラボローテーションは良い取り組みであったと思います。また、GA の具体的なカリキュラム以外で、入構してから感じ

た特筆すべきことが2つあります。

まず1つ目は、GA の修了要件の重要性です。GA では、修了要件の必須単位数が一般的な博士課程よりも多く、自分の研究を進めつつ、文系科目の履修やラボローテーションといったさまざまなタスクが準備されています。おそらく一生忘れることはないと思います

が、それらのタスクすべてをスケジュール通りにこなしていくのはいわゆる“大変”で、複数タスクへの対応力が問われ、それが養われました。機構に入構してから、常に仕事の優先順位を考えて行動し、特に先々のスケジュールを意識しながら仕事ができる能力は、誰もが当たり前持っている能力ではないと感じ、このような能力はGAを通して鍛えられたのだと実感しています。

2つ目としては、GAに入ってカリキュラムを履行する責任です。私が入構したJOGMECは経済産業省を主務省とするいわゆる“独法”ですので、国からの交付金で事業を実施しています。税金を使うということは、国民に対して説明責任を問われるということで、日本の公益を意識したお金の使い方が常に求められます。GAでは奨励金を頂いていると思いますが、これは文部科学省を通して国民の税金から支出されていますので、考え方は一緒で、GAのカリキュラムを積極的な姿勢で履行し、GAを修了してから得られた能力（成果）を将来の日本の公益に還元することが重要だと思います。GAでは、そのような優秀な博士人材の育成を目的としているので、修了要件が厳しく設定されているのは、当然と言えば当然です。

自分がGA生の時はこのような考えには至らなかったですが、修了して外部からGAを見た時に、このような印象を持ったということがお伝えできれば幸いです。GAの修了生が今後、いろいろな分野で活躍していけると良いなと思い、この原稿を書いている私自身も頑張ろうと思います。



グリーンアジア国際戦略プログラム
第1期修了生
(現：国立研究開発法人 産業技術総合研究所)

松本 親樹

うこともあれば、日常的に冗談を交えながらそのような話をすることもあります。GAプログラムにおけるそのような経験は、海外の方々と研究・仕事を行う際、現地の文化や社会性の理解、環境問題の深刻さ等を議論することや親睦を深めるという点において大変役立っています。また、現地の方々と議論する中で「他国における事例」としてお話することもできるので、そのような点においてもGAプログラムにおける日々の生活や講義は、アジアをはじめとした地域における「人材ネットワークの構築」に役立っていると実感しています。日常的にこんなにも国際的なやりとりができることは大変貴重な経験だと思いますので、本プログラムに在籍中の方々には、ぜひこの機会を生かして国際的なコミュニケーション力を高めてもらいたいと思います。

私は1期生としてGreen Asia (GA) プログラムを修了し、現在は研究者として「環境課題の解決に必要な水文学・地下水学の研究および地下空間の開発・利用に係る調査・開発」を行っています。研究対象地域は日本国内のみならず、世界中を対象としています。GAプログラムには複数の国々からきている学生や教職員が在籍しており、その中で他国の文化や社会性、政治、国内での問題に関して話をする機会が多々あります。講義を通して議論を行



東・東南アジア地球科学計画調整委員会
第53回年次総会における研究発表の様子



グリーンアジア国際戦略プログラム
第2期修了生

平川 知明

に入った当初、研究発表をすると、この研究の応用先は何か？という質問をGAの先生方からよく受けました。それまで考える必要がなかったので、答えに困りました。GAには、国際演習という科目があります。博士研究とは別に、独自で研究をしてまとめなさいという科目です。そこで、水面波研究の応用先であり、かつ多くの人が重要視する環境問題関連の研究テーマを取り上げました。今思うと、この国際演習が僕の進路の分水嶺だった気がします。その研究テーマの延長を未だに続けていますし、この演習がなければ現在の研究生活はないと思います。研究の応用先を考えない生徒はほとんどいないでしょうが、もししたら、国際演習で真剣に考えてみるのも良いと思います。

GAプログラムの中で特に役に立った点、プログラムや後輩に望むこと

GAプログラムに参加する前の博士前期課程から水面波の研究をしていました。一見シンプルな水面波ですが、実は案外複雑で、数学的にも豊かな研究テーマです。有難いことに、GAプログラムに参加でき、博士後期課程でも水面波の研究を続けることができました。プログラム